

群馬県中学校放送コンテスト
兼
第20回NHK杯全国中学校放送コンテスト群馬県大会
結果報告について

- 1, 日 時 平成15年7月11日(金)
2, 会 場 日本放送協会 前橋放送局 クリエイティブルーム
3, 主 催 群馬県小中学校教育研究会情報教育部会
NHK前橋放送局
4, 審査員

《教育研究会》

小林 建夫(会長:前橋市立天川小学校長)
松井 和夫(事務局長:前橋市立芳賀中学校長)
松岡 三吉(放送担当理事:前橋市立春日中学校長)
後藤 一浩(書記:前橋市立子持中学校教諭)

《NHK》

寺田 道雄(チーフアナウンサー)
佐々 照夫(放送副部長)

5, 参加校一覧

	学校名	顧問名	アナウンス	朗読	テレビ	ラジオ	計
1	共愛学園中学校	田口 受子		2			2
2	新島学園中学校	小宮山仁・高田一弘	3	2			5
3	粕川村立粕川中学校	今泉 真由美		3	2	1	6
4	前橋市立南橋中学校	藤川 桂子		6			6
5	吉井町立西中学校	金古 和美		3			3
6	高崎市立豊岡中学校	今泉 實千代	2	5			7
7	玉村町立玉村中学校	吉田 篤之		1			1
8	太田市立城東中学校	平井 智久	1	7			8
			6	29	2	1	38

群馬県中学校放送コンテスト兼第20回NHK杯中学校放送コンテスト
群馬県大会結果報告 入賞者一覧・審査講評

1 アナウンス部門

最優秀賞 渡辺 奈津希 新島学園中学校3年
優秀賞 矢島 史菜 新島学園中学校2年
【以上2名は全国大会へ推薦・出品】

優秀賞 田島 美希 新島学園中学校1年
優良賞 篠崎 千穂 高崎市立豊岡中学校3年
奨励賞 柴山 あすか 高崎市立豊岡中学校3年
高橋 美帆 太田市立城東中学校3年

2 朗 読 部 門

最優秀賞	野口 由香理	新島学園中学校 3年
優 秀 賞	藤村 由美	共愛学園中学校 3年
	阪本 しおり	新島学園中学校 1年
	茂木 葉月	粕川村立粕川中学校 2年

【以上の4名は全国大会へ推薦・出品】

優 良 賞	平林 里衣	共愛学園中学校 3年
	小林 祥美	高崎市立豊岡中学校 3年
奨 励 賞	大上 景司	前橋市立南橋中学校 1年
	中村 恵莉	吉井町立西中学校 3年
	井林 彩佳	高崎市立豊岡中学校 2年
	中田 香	太田市立城東中学校 1年

3 番組制作（テレビ）部門

努 力 賞	「校則」	粕川村立粕川中学校
奨 励 賞	「山童様がないとる...」	粕川村立粕川中学校

4 番組制作（ラジオ）部門

入選作品なし

審査講評

各部門共通（アナウンスメントについて）

昨年までは、いくつかの作品をのぞいて、全体的に文章の読み込み不足がみられ、文を細かく切り過ぎる（句読点以外のところで切りすぎる）傾向が多く、ただ読んでしまっている作品が多く見られた。しかし、今回は事前に黙読等を繰り返し行うことを通して、意味の解釈・文のつながりの理解を深められている作品が増えており、6作品を全国大会に推薦した。非常にレベルの高い大会となった。

しかし、まだ細かく文を切ってしまうたり、助詞や語尾が伸びてしまう作品がある。滑舌をはっきりとさせ、助詞や語尾の切り方にも注意して読み込んでほしい。

アナウンス部門について

原稿を作成する段階で何を伝えたいのかを考え、ねらいを絞った作品が少なかったのが残念である。身近なところに素材を探し、具体的にうたえていくことが大切である。

アナウンスメントについては、上記アナウンスメントを参考にされたい。中でも渡辺さん（新島中）は、アナウンスの内容が自分の取材に基づき、何を知らせたいのかねらいが具体的で明確であり、まとまりもあるもので、評価できる。また、彼女の聴取者に話しかけるような語り口は、すばらしいものであった。矢島さん（新島中）のアナウンスも声が良く出ており、長い意味のまとまりをよくつかんでアナウンスができていた。田島さん（新島中）は、1年生ながら声がしっかりと出ており、今後の研鑽を期待したい。

朗読部門について

ほとんどの作品の録音状態は良好であった。

野口さん（新島中）・藤村さん（共愛中）は長いセンテンスをしっかりと読めており、渡辺さん（粕川中）は内容をよくつかんだ朗読であった。また、阪本さん（新島中）は、1年生ながらしっかりとした読みができており、今後期待できる。しかし、多数の作品に昨年同様、文章を短く区切って読む傾向が見られたのは、残念で

あった。朗読の場合、文字を追って読んでしまっただけでは朗読によるよさは伝わらない。いかに繰り返し読み込み、自分をその文に没頭させていくかが大切な点である。

そのほかは、上記アナウンスメントの講評を参考にされたい。

番組制作部門につて

粕川中は連続参加で、年々良くなってきている。自分たちの身近なところに素材を求め、それを伝えようとしている点が評価できる。

ラジオ部門については、題材を「土曜日の過ごし方」という身近なものを選び、それをインタビュー形式を取り入れ、伝えようとしていた点は評価できる。しかし、残念ながらインタビューから伝わるものが薄かった。インタビューの工夫がほしいところである。

しかし、今後の大きな課題として言えることは、ラジオ・テレビ両部門については「番組」の制作であるということをしかりと意識してほしい。「番組」とは、単に取材したものの「発表」ではなく、自分たちの「意図すること」を「どのように」伝えるかが重要である。「番組」とは、「伝えたいことを伝えるための手だて」であり、そのための「展開」や「構成」をもっと意識してほしい。その中で、「音声」のみのメディアである「ラジオ番組」の特性を生かした作品作り、「映像＋音声」という「テレビ番組」の特性を生かした作品作りを意識することが必要である。

応募に関して

例年、応募に関して全国大会事務局からも通達がきており、本県要項にも謳っておりますが、応募の際には全国大会要項を確認してください。特に、カセットレーベルの作成・添付についてのミスが例年目立っております。

また、作品録音の際はくれぐれも、静かな場所での録音をお願いいたします。せっかくの作品に他の生徒の音が混じることが多々見られ、残念なものも多くあります。